

令和 6 年 12 月 23 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は、宗谷・留萌海域で前年比 1.34、石狩・後志海域で前年比 1.56、檜山・渡島海域で前年比 2.13
- ◎利尻・礼文島周辺海域および武蔵堆西部海域では尾叉長 30 cm 前後の 3 歳魚（2021 年級）主体で、45cm 前後の個体が混ざる
- ◎留萌沖では、300m 以浅では尾叉長 18 cm 前後の 1 歳魚（2023 年級）が主体で、300m 以深では 20cm 台の 2～3 歳魚（21～22 年級）が主体
- ◎積丹沖、岩内沖、檜山では尾叉長 45cm 前後が主体で、積丹沖では 30cm 台の 4～5 歳魚（2019～2020 年級）も多い

2023 年 10 月 16 日～30 日に道西日本海の図 1 に示した海域において、稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により、計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図 2 に、魚探反応量 NASC の分布を図 3 に示します。今年度の調査では、武蔵堆北部～西部(ライン A とライン B の沖側)と積丹沖(ライン I, J)で強い反応が見られました。

海域別の反応量は、宗谷・留萌海域で前年比 1.34、石狩・後志海域で前年比 1.56、檜山・渡島海域で前年比 2.13 であり、全体では前年比 1.46 でした（魚探反応量は暫定値）。

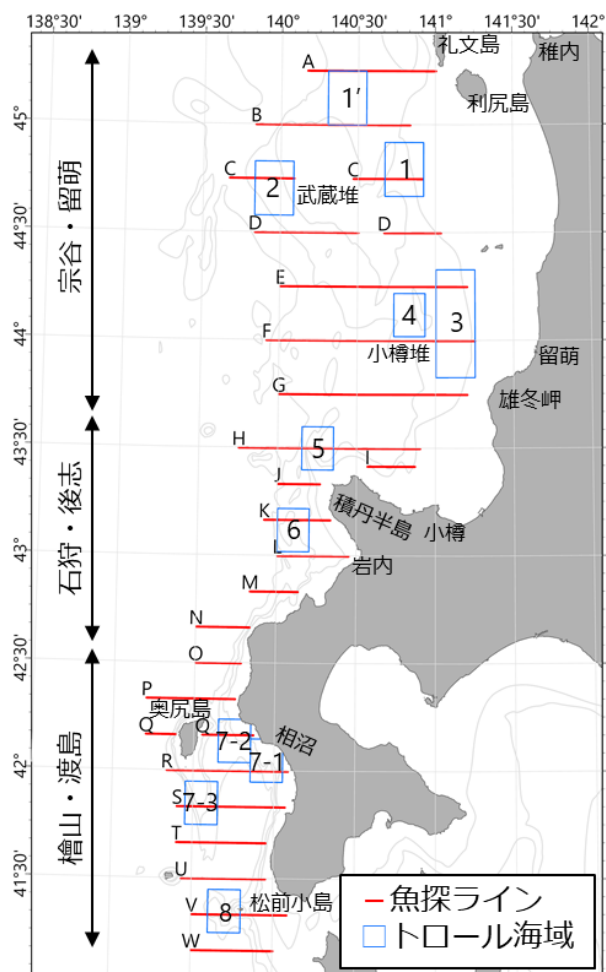


図 1. 調査海域図

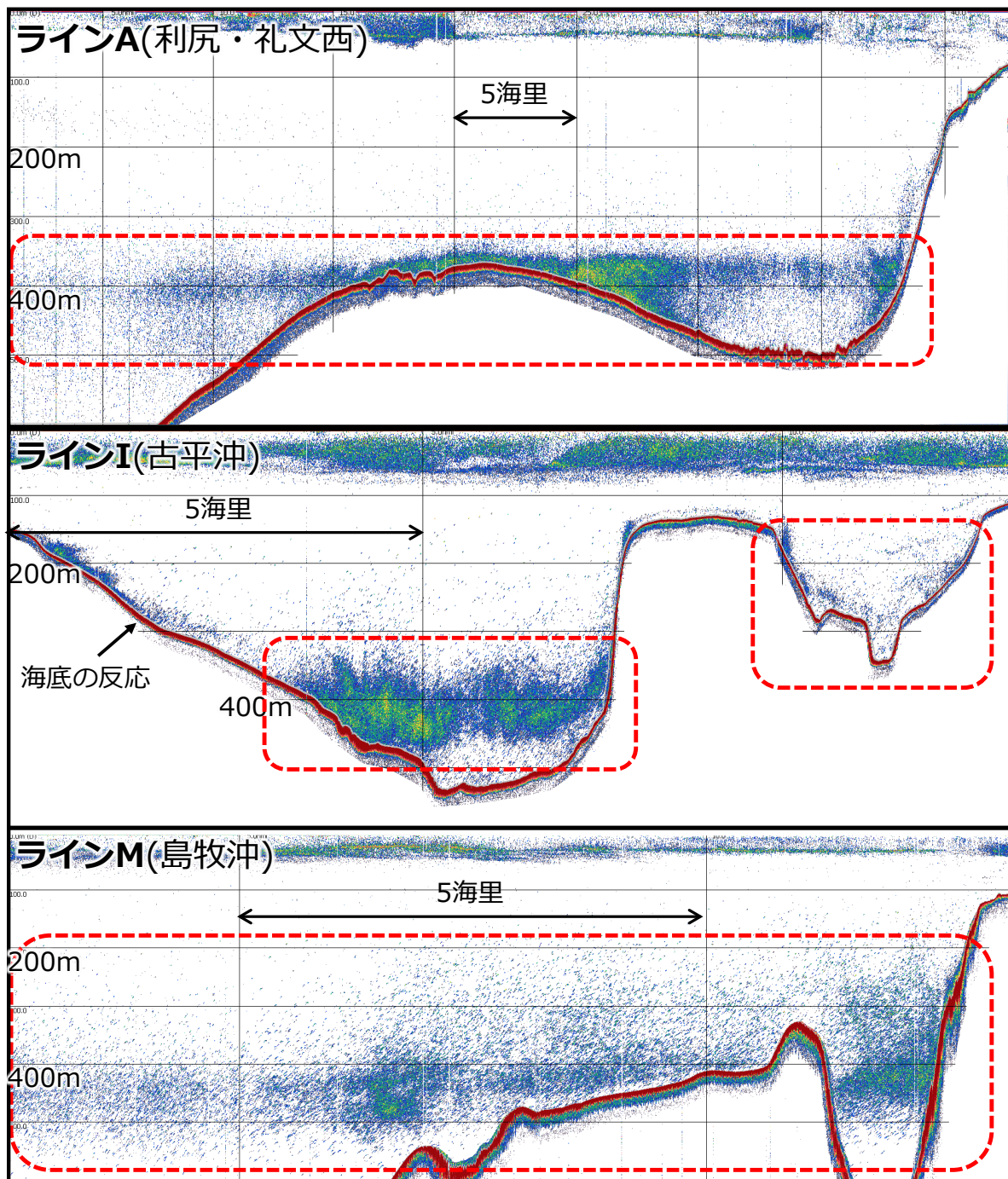


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）.
赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

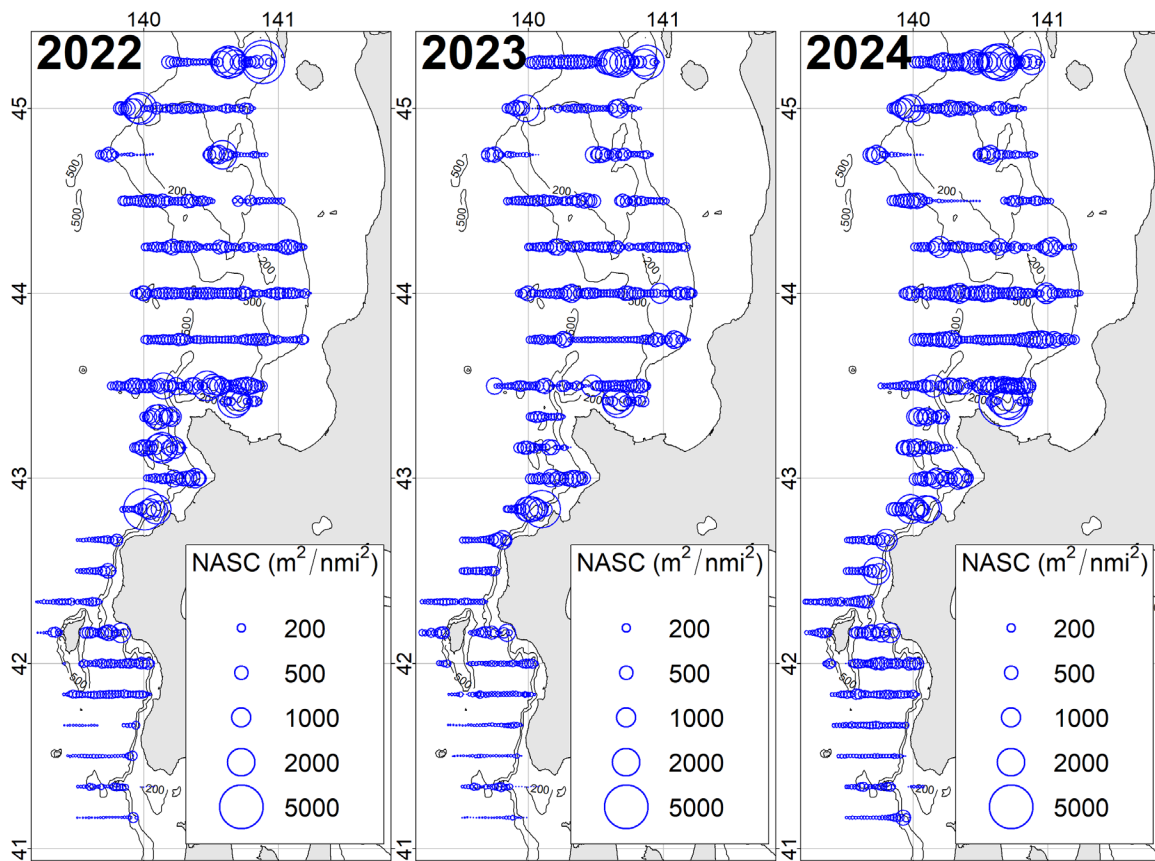


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。利尻・礼文島周辺海域および武蔵堆西部海域(トロール海域 1' , 2)では、尾叉長 30 cm 前後の 3 歳魚(2021 年級)が主体で、幅広いサイズの個体が漁獲されました。

留萌沖(トロール海域 3)では、海底深度 300m 以浅では尾叉長 18cm 前後の 1 歳魚(2023 年級)が多く漁獲され、海底深度 300m 以深では尾叉長 20cm 台の 2～3 歳魚(2021～2022 年級)が主体でした。

積丹～檜山海域(トロール海域 5～7)では尾叉長 45cm 前後の個体が主体で、積丹沖では 30cm 台の 4～5 歳魚(2019～2020 年級)も多く漁獲されました。

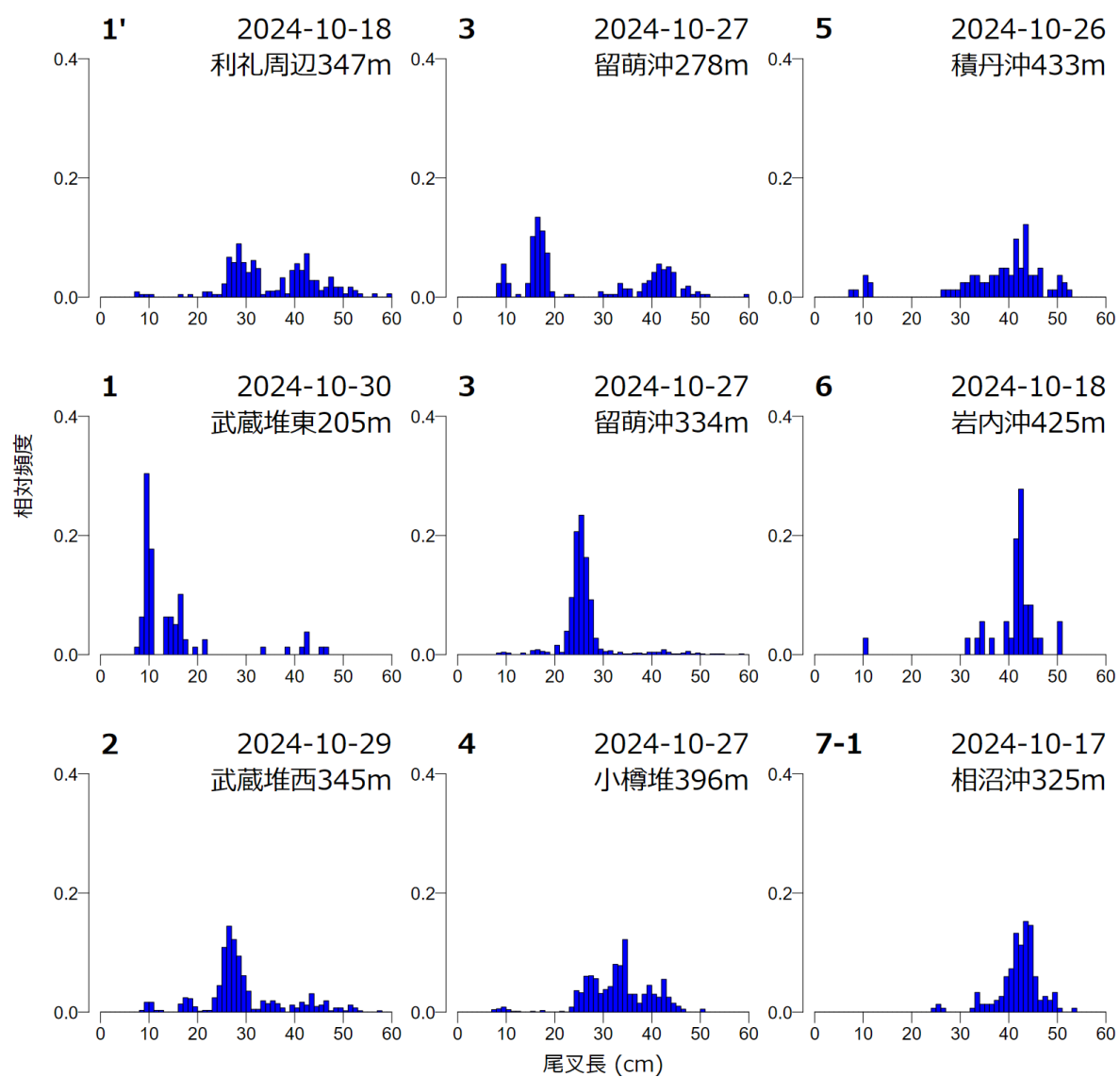


図 4. スケトウダラの尾叉長組成 (2024 年 10 月道西日本海).
各グラフ左上数字は図 1 のトロール海域番号と対応.